

1 三条防災ステーションの活用

災害時の防災拠点でありながら「市民が集う憩いの場」と「水害の教訓を後世に伝える防災教育施設」を国と市が共同で整備

【平時】親水公園として



芝生広場の整備



船着場の整備



【災害時】防災拠点として



水防資機材の配備



災害対策車両の配備



【平時】防災学習施設として



水防学習館と災害対策車両庫



過去の水害に触れる



気象キャスターによる
お天気教室の様子



タブレットで
水害クイズ

【今後の取組】 ～ “交流・憩いの場” と “防災学習の機会” をつなぐ～

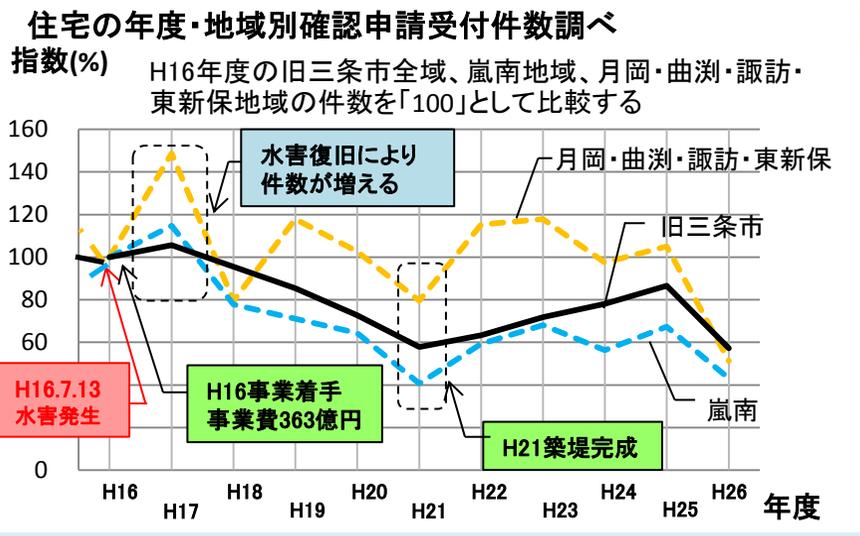
親水公園として更なる賑わいを創出するとともに、防災への啓発を進めていくため、河川敷地で営利活動が可能となるよう取組を進めています。



3 河川整備によるストック効果

五十嵐川災害復旧助成事業による治水安全度の向上が経済的効果を発揮

旧三条市全域の住宅着工件数は、水害後、景気の低迷などの影響を受けて減少をしているが、月岡・曲淵・諏訪・東新保地域の住宅着工件数は、五十嵐川改修工事の進捗に伴い安全性がもたらされたことにより着工が進み、減少幅が少ない。



浸水エリアの住宅着工総工事費と比較して

経済効果 **大** ↑↑↑